

参 考 手 本

山鐘夜雪の時

山 鐘
夜 雪
時

高 木 聖 雨 先 生

※これは規定課題ではありません。

参 考 手 本

※これは規定課題ではありません。

盛徳足らざる若し

盛徳足らざる若し

成瀬映山先生

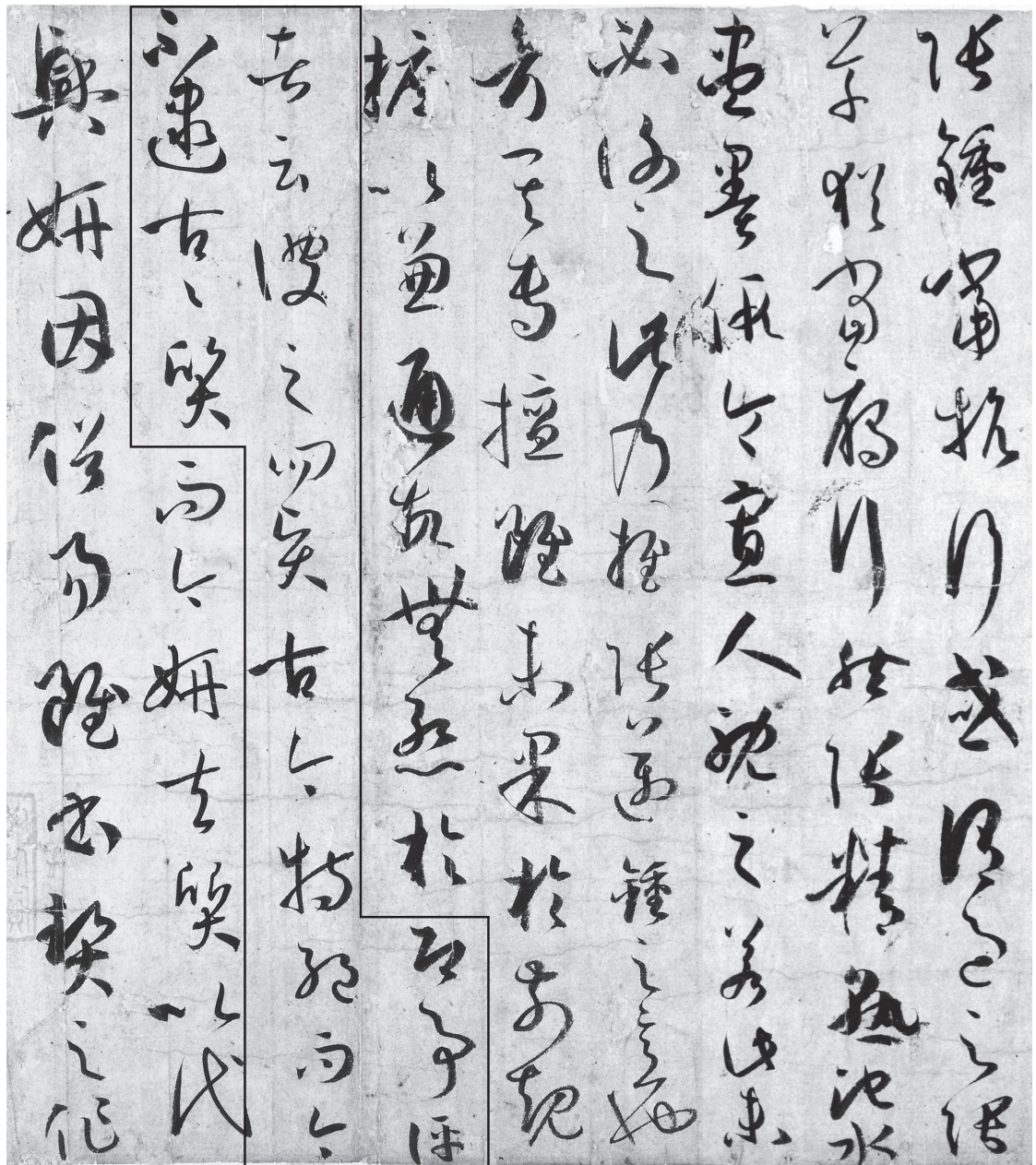
条幅規定

A 部（準五段以上）

『書譜』

⑧

孫過庭



い...い...い

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

「この課題を同月の条幅随意には出品出来ません」

【今月の課題】

「即事評者云彼之四賢古
今特絶而今不逮古古質」

(20字)

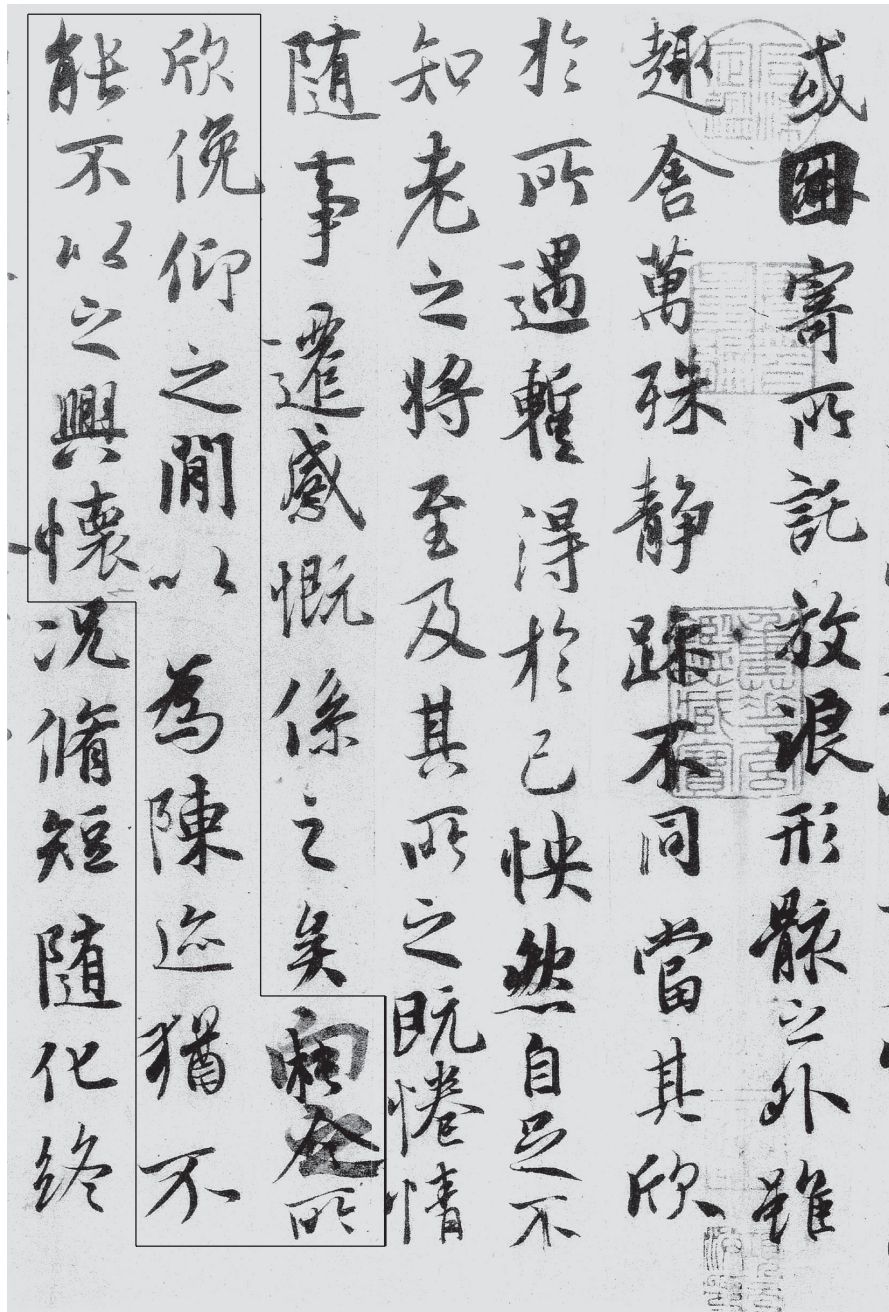
張。鍾當抗行。或謂過之。張草猶當鴈行。然張精熟。池水盡墨。假令寡人耽之若此。未必謝之。此乃推張適鍾之意也。考其專擅。雖未果於前規。撫以兼通。故無慙於即事。評者云。彼之四賢。古今特絶。而今不逮古。古質而今妍。夫質以代興。妍因俗易。雖書契之作。鍾には當に抗行すべく、或いは謂えらく、之に過ぎんと。張の草には猶當に鴈行すべきも、然れども張は精熟して、池水尽く墨となる。假令寡人之に耽ること此の如くんば、未だ必ずしも之に謝じずと。此れ乃ち張を推して鍾に邁ぐとするの意なり。其の專擅を考ふるに、未だ前規より果ならずと雖も、撫りて以て兼ね通ず。故に即事に慚ずる無し。評者云く、彼の四賢は、古今の特絶にして、而して今の古に逮ばざるは、古は質にして今は妍なればなりと。夫れ質は代を以て興り、妍は俗に因りて易わる。書契の作るや、

(1月10日締切)

条幅規定

B部（四段以下）

『蘭亭叙』
王羲之（東晋）



閑
猶
興

或因寄所託。放浪形骸之外。雖
趣舍萬殊。靜躁不同。當其欣
於所遇。暫得於己。快然自足。不
知老之將至。及其所之既倦。情
隨事遷。感慨係之矣。向之所
欣。俛仰之間。以為陳迹。猶不
能不以之興懷。況脩短隨化。終

或いは寄せて託する所に因つて、
形骸の外に放浪す。趣舍万殊にし
て、静躁同じからずと雖も、其の
遇う所に欣び、暫く己れに得るに
当たつては、快然として自ら足り、
老の將に至らんとするを知らず。其
の之く所既に倦み、情は事に随
いて遷るに及んで、感慨之に係われ
り。向の欣ぶ所は、俛仰の間、以
に陳迹と為るも、猶お之を以て懷
を興さざる能わず。況んや脩短は
化に随い、終に

【今月の課題】

「因之所欣俛仰之間以為
陳迹猶不能不以之興懷」

(18字)

「この課題を同月の条幅随意には出品出来ません」

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

(1月10日締切)

曹全碑（漢・作者不詳）

廉武威長史

半紙規定（一）



※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

孝廉に挙げられ武威長史

九成宮醴泉銘（唐・欧陽詢）

痼又將延彼

半紙規定（二）



※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書
〔二級以下〕楷書

沈痼を…又た將に彼の遐齡を延べんとす。

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕

（1月10日締切）

条 幅 参 考 手 本

千山鳥飛絶萬徑人蹤滅孤
舟蓑笠翁獨釣寒江雪

南嶂

渡 邊 南 嶂 先 生

千山鳥飛絶 萬徑人蹤滅 孤舟蓑笠翁 獨釣寒江雪
千山鳥の飛ぶこと絶え 万径人の蹤滅ゆ 孤舟蓑笠の翁 独り釣る寒江の雪

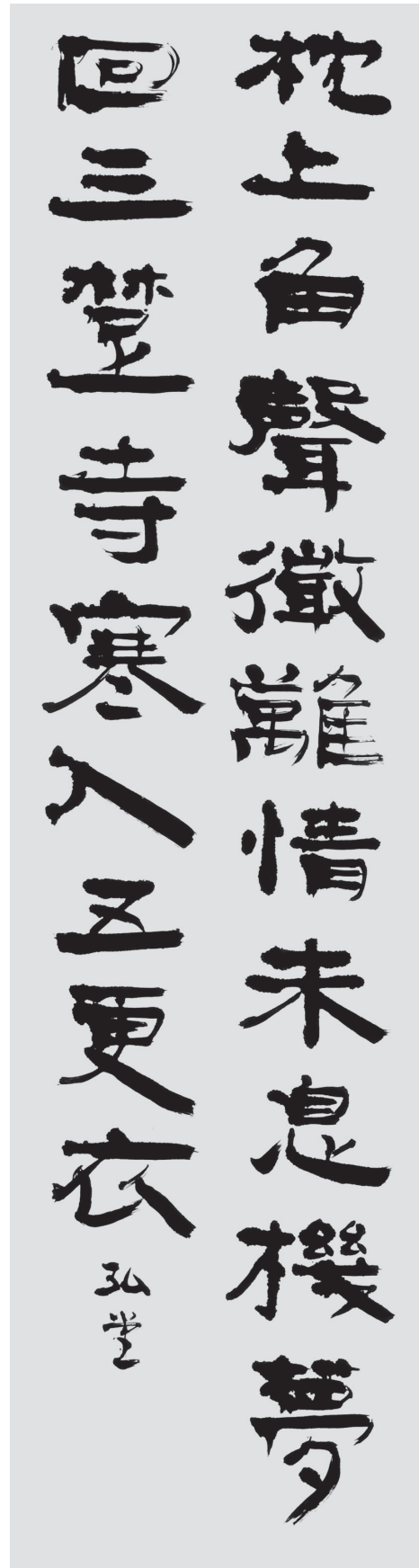
渡 辺 久 美 先 生

微聽松風響 而無鐘磬音 禪房僧未起 初日上東林
禪房僧未起 初日上東林

久美

微聽松風響 而無鐘磬音 禪房僧未起 初日上東林
微かに聴く松風の響き 而して鐘磬の音無し 禪房僧未だ起きず 初日東林に上る

条幅参考手本



樋口弘堂先生

枕上角聲微 離情未息機 夢回三楚寺 寒入五更衣
枕上角聲微に 離情息機せず 夢は回る三楚の寺 寒は入る五更の衣

条幅かな



浮乗清郷先生

大原^{おほはら}やをしほ^{やま}の山^{やま}のこまつ^{ばら}原^{はら}はや木^こ高^{たか}かれ千代^{ちよ}の影^{かげ}みむ^{可个無} (紀貫之)

※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左下部に添え書きして下さい。

支部名 段級 姓号 (鉛筆)

(1月10日締切)

半紙かな（１級以下）

子の日しに都へ行ん友もがな（松尾芭蕉）

子の日しに都へ行ん友もがな

支部名 級 姓 号（鉛筆）

※ちらし文字変換は自由

※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

半紙かな（初段以上）

ことしより君がよはひをよみて見む松の千とせをあり数にして（良寛）

ことしより君がよはひをよみて見む松の千とせをあり数にして

支部名 段 姓 号（鉛筆）

若 月 久美子 先生

※ちらし文字変換は自由

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

（１月１０日締切）

浮 乗 清 郷 先生

実 用 文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

〈書風任意〉

ゆく河の流れは絶えずして、
やがての氷にあらざるよどみに
ぶらたはかつ消えかつ結び
て久しくとどまりたるやうなり
夏部名 段納 姓 号

森 亜希子 先生

「方丈記」鴨長明より

(1月10日締切)

細字

高須翠雲書「五體昭和千字文」より
P42

主幹 菅野 翠濤

遡 船 埠 所 停 舶 牧 牛
 遡 船 埠 所 停 舶 牧 牛
 遡 船 埠 所 停 舶 牧 牛
 遡 船 埠 所 停 舶 牧 牛

支部

段級

姓

号

(名前は必ず楷書で書くこと)

※一級〜八級は草書まで。 初段以上は隷書まで。

※名前は楷書以外では違反になります。

17 cm (よこ) × 24 cm (たて)

遡^{さく}

船^{せん}

埠^ふ

所^{しょ}

船が上流へさかのぼる。

船つき場。

(1月10日締切)

硬筆（１級以下）

2行、楷書

古今東西、名著といわれる多くの
本が、私に英知を与えてくれた。
支部 級 姓 号

田 邊 翠 鶴 先 生

硬筆（初段以上）

3行、行草書

除夜の鐘がひびきつつ街に響いていた。
それぞれの朝いが静かに空へ昇っていく。
年を越すという儀式がまろおしい。

支部 級 姓 号

…鐘…響いて…願い…愛おしい。

青 柳 江 雲 先 生

※本院定型用紙・たて半分に書く

（1月10日締切）

小6用

今年の夢

渡
邊
南
嶂
先生

中1用

初春大空

渡
邊
南
嶂
先生

中2用

新雪遠山

渡
邊
南
嶂
先生

中3用

富岳百景

大
越
三
宗
先生

小1用

はっぴ

鈴木 翡翠 先生

小2用

かどまつ

鈴木 翡翠 先生

小3用

たこ上げ

鈴木 翡翠 先生

小4用

明るいい光

大越 三宗 先生

小5用

元日の朝

大越 三宗 先生

青柳江雲先生

中3用

新年を祝し、皆様の
ご多幸をお祈り申します。

青柳江雲先生

中2用

賀春、心より新年のお
祝いを申し上げます。

青柳江雲先生

中1用

本年もよろしくご指導
をお願い申し上げます。

鈴木蕙翠先生

小6用

昨年は、お世話になり
お礼申し上げます。

小5用

本年が良い年になるよ
う願っております。

鈴木蕙翠先生

小4用

新しい年の初めを、お
いわい申し上げます。

鈴木蕙翠先生

小3用

今年もよろしくおねが
いします。一月一日。

齊藤翡翠先生

小2用

お正月に、かるたやト
ランプであそびたい。

齊藤翡翠先生

小1・幼年用

あけましておめでとう
ございます。

齊藤翡翠先生